

第2回新生公立鳥取環境大学設立協議会議事概要

日 時 平成22年11月19日（金）15：40～16：30
場 所 鳥取県庁3階 第4応接室
出席者 鳥取県：平井知事、横濱教育長、高橋企画部長
鳥取市：竹内市長、中川教育長、松下企画推進部長
鳥取環境大学：八村理事長、古澤学長、谷口常務理事
アドバイザー：(株) ナノオプトニクス・エナジー代表取締役社長 藤原氏

○平井鳥取県知事あいさつ

- ・本日は、前回設立した新生公立鳥取環境大学設立協議会の第2回の会合を開催させていただいた。
- ・現在、県内外からアドバイザーの選任を進めているところであるが、本日はアドバイザーの中から藤原アドバイザーにご出席いただいている。
- ・このほかにも、県内外の有識者の方にカリキュラムの内容、あるいは運営について貴重なご意見を随分賜っている。その話は後ほど事務局から聞けると思う。
- ・今、我々は新しい大学を作る姿を県民の皆様の前に提示しなければならない、そのような責務をおっている。
- ・12月になると、鳥取市そして鳥取県で、議会の審議も本格化をするわけであるが、その際に県民に対する説明責任を果たしながら大学の次の姿を打ち出していく必要があると思っている。
- ・これまで、大学当局の案をベースにして、事務局の方でカリキュラムの考え方や大学運営の今後の新しい方策について、議論を進めてきたところである。
- ・今日は委員の皆様にごこれをお聞き取りいただき、ご審議賜りたいと思う。
- ・審議をいただいた後、議会、あるいは県民の皆様への説明をさせていただく。いろいろなご意見もこれからも出ると思う。
- ・そのような意見もまた、我々の成果の中へフィードバックして、よりよい大学作りを目指していきたいと思う。
- ・幅広い理解をいただかないことには大学の再出発はできないわけであり、是非とも皆様のご協力を賜りたいと思う。

●中山事務局長 資料1～6説明

●中山事務局長

- ・これらの部分で追加すべきこと、あるいは修正すべきことをご議論いただき、これらの案を深めて参りたいと思う。

○中川市教育長

- ・環境学部の資格のところ、理科の免許がとれるということであるが、これは非常にありがたいと思っている。

- ・ここで、高校の教員、高校の理科と限定されているが、これは中学校の理科というのとはとれないということか。

●中山事務局長

- ・現段階では、中学校理科の部分は含まない設計にしている。そこは教員の必要人数とかそういったものを勘案しての検討が必要なところかと思っている。

○中川市教育長

- ・学校現場においては、特に中学校の理科の教員というのが非常に不足気みであり、あと何単位ということであれば、おそらく鳥取大学との連携で、中学の義務教育の理科の教員免許課程の設置も可能だと思う。その辺も是非検討していただき、中学校の免許も取ればありがたい。

○横濱県教育長

- ・それに関連してであるが、高校に関して言うと、理科の採用もまずほとんど見込めない。今年でも採用が5人であった。理科の退職者も5、6年先も多分ほとんど無いので、高校に絞って、県内ということを見ると、少し狭くなるかもしれない。むしろ中学校とか、小学校とかということの方がいいのかなという感じがする。
- ・もう1つ、語学で北東アジアとの交流という形でロシア語が出てくるわけであるが、ロシア語も含め中国語、韓国語は、到達目標として、どのレベルまで力をつけていくつもりなのか。

○古澤学長

- ・今のところ1年生、2年生の履修になっているが、それだけではあまり役に立たないと思っている。英語は必修であるが、これらは選択必修であるので、学生が希望するようなことがあれば、3年生、4年生でも履修できるようにしないと、なかなか意義のある語学にはならないかなとは思っている。
- ・英語については、TOEFLとかいろいろあるので、結構頑張って、最終的にいろんな能力のつく学生がでるのであるが。韓国語、ロシア語、中国語については、是非とも3、4年生まで引っ張れるような科目構成にしたいと思っている。

○横濱県教育長

- ・選択であるので、なかなか条件が難しいかもしれない。

○古澤学長

- ・選んでくれれば、上に上がれるチャンスを与えてあげられるということは大事だと思う。

○横濱県教育長

- ・ある程度高いハードルを設定し、それをクリアして、環境大学を出た子供たちは環日

本海の分野に関してはかなりできるというような評価、あるいはブランドを作っていくというのも大事ではないかと思う。

○古澤学長

- ・数は少ないが、今、環境大学の学生が韓国に留学している。半年ぐらい経つが、韓国語はペラペラになっているということである。
- ・海外の大学との連携をしっかりと行い、生活の中でのことはしっかり覚えていくということは大事であるし、そのような機会もどんどん作っていききたいと思う。

○藤原アドバイザー

- ・環境学部であるが、実践的学習というところで、自然資源管理論と再生可能エネルギーというのがある。出口にも関係するが、公務員なども狙っているということであれば、交通システムなども非常に重要であると思う。
- ・例えば、私は電気自動車を作ったりしているが、そのようなことだけでなく、今、鉄道の価値がすごく見直されていたり、あるいは路線バスの仕組みの再設計などが求められる中で、交通システムというのが1つあるといいのかなと思った。
- ・経営学部の方であるが、似たようなところで1つ講座を持っている。慶応大学湘南藤沢キャンパスで、私が担当しているのは環境情報学部という名前であるが、環境情報学部ともう1つ総合政策学部というのがあり、ここはかなり交流をしているところがある。
- ・この総合政策にあたる部分であるが、「ポリシー」を経営学部の中で学べるところがあるといいのかなと思う。
- ・特に環境問題は、政策との関係が非常に大きいものがある。これは国のレベルでやるものか、県のレベルでやるものか、あるいは市のレベルでやるものか、またあるいは国際関係の中でやるものなのかなど。
- ・ここら辺の大局観をもったポリシーに対する概念を学生時代から持つておくというのは、技術をやる場合でも非常に重要なことと思う。総合政策など、ネーミングは別として、政策について学べるコースがあるといいかなと思う。

○高橋県企画部長

- ・カリキュラムの関係で今説明いただいた。最初に横濱教育長から語学の関係があったが、ロシア語、中国語、韓国語ということで、北東アジアの方向を注視するということが非常にいいかなと思った。一方で、英語教育については、元々開学したときに売りの1つだったわけである。もう一度原点に戻って、TOEICで何点を目標にするとか、英検の資格取得を導入するとか。実際の社会に役に立つ英語をきっちり教えるというところをもう少し強く打ち出すと面白いかなと思った。
- ・あと環境学部、経営学部のカリキュラムであるが、この大学はどういう人材養成を目指すかというところで、おそらく研究者というよりは、社会で役に立つ、実学で役に立つ人になっていただく、そういう学生を養成していくということかなと思う。
- ・環境大学では、ここに環境監査、アセスメントとかあるが、環境会計など企業で役に

立つような環境であるとか。あと経営であれば、会計学などを入れていただいているが、貿易実務で役に立つであるとか、すぐに実践に役に立つような講座を実施していただくとは非常に売りになるのではないかなという感じがする。

- ・一方で事務局の説明でもあったが、環境であれば居住環境の創造のところとか、経営学部であれば情報技術関係の部分。その辺が今の4学科から今度2学部2学科に移すというときに、新しい2学部になったときにどこまで残していくかということかなと思う。
- ・新しい環境学部の中で必要なものは当然残せばいいし、経営の観点で重要なものもあるかと思うが、あまりプログラミングとか、経営を学ぶ人間に必要なのないようなものは、残しておく必要もないのかもしれない。
- ・そうしたところを、きっちりとゼロベースで精査していただくのが必要かなという感じがする。
- ・あと最後に人事給与制度の話があったが、こういうことはメリハリを図っていくということが重要かなと思う。
- ・しっかりと人事評価をして、実績のある方はもちろん応分な待遇をしていくし、そうでない方はそれなりにというようなことをきちっと評価できるシステムが必要である。
- ・他大学も任期制の導入とか、いろいろ新しい人事システムを組まれているなどといったケースもあるので、こうしたことも積極的に検討していただけたらいいのかなと思う。

○竹内鳥取市長

- ・環境学部の関係で、藤原社長の方から交通システムという話があったが、交通は環境に大きな影響を与える部門で、公共交通というのは高齢化社会が進展する中でも非常に重要な手段だと考えている。
- ・BDF、バイオ・ディーゼル・フューエルとかそういう形でもそうであるが、公共交通のシステムと環境との関係などをずいぶん意識してもらえというのは、非常にありがたい話だと思う。
- ・1つ申し上げたいのは、環境学部の下には資格教育の充実というものがある。
- ・ところが、経営学部の方はそのような柱が立っていない。
- ・実際はよく見てみると、会計学など、魅力アップの方の関係で、経営学に即したような資格を取れるというようなものもある。
- ・このような学部を説明するときに、片方に資格教育の充実があって片方には無いということには違和感がある。
- ・形式的ではあるかもしれないが、両学部を通じてそのものがあるのであれば、両方に入れてもらえるような配慮が必要ではないかと思う。
- ・例えば、まとめて大学として資格教育を充実しているなど、どの学部も力を入れているということが、バランスがとれた感じで表記ができたらいいいのではないかと思う。
- ・環境学部で特に意識されているというような面があるのかもしれないが、経営学部でも同様であって欲しいという思いから、資格教育の充実が5番目に挙げられているが、これを経営学部の5番目にも挙げてもいいのではないのだろうかと思う。

- ・この資料5の方には、公認会計士なども挙がっているが、普通の税理士などの税理士試験なども挙げていいと思う。
- ・会計学やその他を勉強すれば適応になると思うので、そのような目立つ資格、分かりやすい資格を1つは挙げられないかという点を意見として申し上げる。

○平井鳥取県知事

- ・たくさん意見が出ているが、総括的なことであるが、この資料の状態で議会や県民の皆さんに説明するのか。それとも、最終的に今日協議会の方向性を出して溶け込ませた形で改善案として出すのか。

●中山事務局長

- ・議会での説明は、今後、その問題点、注意点を併記した格好で提示させていただき、議会での議論を踏まえた後で溶け込ませたものを作るという格好にさせていただけたらと思う。

○平井鳥取県知事

- ・それも分かりにくい気がする。大学側でどうしても受けられない事があるかどうかの検証はしてもらい、責任を持ってこういう案でいかかという形でお見せし、それで議会で意見が出たら修正していくと。徐々に修正していくという形の方がいいのではないか。
- ・もちろん大学の実務の方も我々素人の面が多分にあるので、こんな科目設定は無理だよっていうのがあれば、そこはまた別途調整をすればよい。
- ・その方が県民の皆さんも分かりやすいし、意見を出しやすいのではないかと思います。
- ・それを総括的なことで注文をさせていただきたいと思う。
- ・それで今いろいろと意見が出たように、いくつかポイントがあると思う。
- ・1つは、鳥取環境大学の特性をどのように持たせるのか。
- ・アドバイザーの意見が書いてあるものを見させていただいたが、新野先生などがおっしゃっておられるように、特徴ある教育として環日本海をにらんだような、他ではやっていないような教育は面白いのではないか、ということは確かにそうなのかもしれない。
- ・であるので、語学教育のところ、先ほども意見があったが、英語教育、それから選択必修の外国語教育を立て直して、やることを1つのセールスポイントになるぐらい、きちんとカリキュラム的にも組んだ方がいいだろうと思う。これは専門家の意見も聞いてプラクティカルなことでやる必要があると思う。
- ・学生のレベルの問題も片方にはある。それから、これと併せて、海外からの学生が比較的自由にというか、交流のチャンスが多いという大学の形態を最初から打ち出してはどうかと思う。
- ・私もロシアに行った際に、ウラジオストク国立経済サービス大学を訪問した。また、こちらの方に学長も来られまして、学長同士も交流されたわけであるが、古澤学長も感じられたと思うが、向こうは積極的に鳥取県に対してアプローチしようとしてこら

れている。

- ・常に向こうの留学生がこちらにいる。こちらからも向こう側に留学生が行ける。そういう学生の希望を聞きながら、相互に交換して国際性を持たせてはどうかと思う。身近にロシア人がいるとか中国人がいる方が、語学の修得であるとか、生活習慣やビジネスマインドを学ぶにしてもいいことはたくさんあるのだと思う。
- ・そのようなマルチカルチャーな学問環境というものを、疑似的にも作っていった方がいいのではないかなと思う。
- ・学生のレベルの問題もあるが、そこを1つの重点的なポイントとして、セールスポイントにできないだろうかというのが1つである。
- ・それから資格のことは当然そうであるが、それに対してフォローアップシステムを作ろうというのはいいことだと思う。魅力づくりの中で出てきているとっとり地域連携・総合研究センター、いわゆるトルクとの合併など研究所の体制をどうするか。
- ・少し時間が無くて、走りながらと思うが、できればこのように統合して、学内にこのような研究所を作りますというのを、学問領域と併せて外側に分かりやすく提示をした方がいいのではないかなと思う。
- ・それと併せて、ここに端緒は書いてあるが、西部にサテライトを置きますということであれば置きますということで皆さんに見せて、そこで何をやるかと言ったらここに書いてあるような社会人教育の場をやると。
- ・また、公開講座は、例えばテレビ会議で受講できるようにするとか。社会的なアイデアも含めて示した方が大学の改革が分かりやすくなるのではないかなと思う。
- ・あと県議会とかいろんな所でも議論があったが、1つのポイントは、持続可能な経営になるのかどうかである。
- ・今日の話の中では、そこの数字的なものが示されていない。これは多分間に合っていないからではないかと思うが、その作業も是非していただきたい。
- ・県議会の2月議会のようなタイミングで、こういうような経営試算ができるであろうと自信もって出せるようなものを、我々協議会としても作成するべきではないかと思う。
- ・それがないと、持続可能な経営かどうかという所の判断なりが、いただきにくくなるのではないかと思う。
- ・その裏腹にあるのは人事管理の問題であり、これは大学側には非常にづらいものがあるかとは思いますが、例えば、任期制であればそれを原則とするということであれば、任期制を原則にしようじゃないかということで協議会としては方針を出していくこともあっていいのではないかと思う。
- ・もちろん経過措置のようにして、就任されている方と新規に雇われる方と、そこはある程度の経過措置を設けるということはあるかも知れないが、原則はこういう考え方で、すっぱりとした人事管理制度を導入しますということは、明確にいった方がいいのではないかと思う。
- ・この評価制度はいいと思う。このようなことをやって、それを点数化して再任されるかどうかということも、実はこうやって決めると。
- ・この前提で大学の先生も頑張って思いやりを持って教えてもらおう。就職活動をしても

らうというようにしてもらいたいと思う。

- ・経営の方は今後の議論の1つのポイントとなるかと思うので、今日はそこまで時間の関係で踏み込みきれてないかと思うが、是非それも作業を急いでいただきたいと思う。

○藤原アドバイザー

- ・1つ忘れていたが、交通の話のほかに、水処理というものを科目の中に入れてもらうといいかなと思う。これは、今後非常に重要な分野となると思う。自治体にも関係あるし、企業のところにも関係がある。

○中川市教育長

- ・地域のプロスポーツとの連携というのは、いいなと思った。ここにもう1つかませて欲しいなと思うのが、環境大学の特色を活かしたエクアドルとの交流。エクアドルの大学との交流っていうのは無理なのか。
- ・これはもう既に、平成14年以来鳥取との関係はあるし、竹内市長はエクアドルのデル・パシフィコ大学の名誉博士号を持っておられるので。
- ・例えば、環境大学にエクアドルから学力優秀でサッカーもできるというような学生が来たりするような。あるいは、逆の場合は、ガラパゴスというところもあるので、ああいう所で環境の勉強は世界最新だから、鳥取環境大学とガラパゴスの勉強もできるというような。

○横濱県教育長

- ・例えば1ページの鳥取環境大学らしさの創造っていうところで、鳥取を深く学ぶ点。これはとてもいいメニューだが、この赤字で書いてある「大学理念との関連が不明瞭な「文学入門」「オペラ入門」などの単なる文化・芸術科目を廃止し」というところ。「単なる」ではなくて、文学っていうのは大学の品格でもあるので、そうしたほんとに芸術的なものをこういう専門の学部がある大学なのだけれど、どこまで準備できるかということも大事な視点だと思う。
- ・そういうところでのワンクッションあるゆとりとか、それはうまく理念になるのではないかと思うので、よろしく願いしたい。

○竹内鳥取市長

- ・環境大学らしさというところは、私は非常に重要だと思う。
- ・他の鳥取大学があることから、何でもフルセットそろえようと思わないで、むしろ鳥取大学に頼れるところは頼ると。鳥取大学は近いですし、行き来することも刺激になっているんなメリットになると思う。
- ・ある程度そういう意識で書かれたかどうかはわかりませんが、関連が不明瞭なという言い方はいささかどうかとは思う。
- ・むしろこういった所は鳥取大学の方に教養科目を依存するということは、私は連携という意味ではいいのではないかと思っている。

- ・鳥取大学との関連を深めるという形でいろんな事を考えておられると思うが、結局先ほど知事も言われた、その持続的な経営がないといけないと思う。
- ・そうすると選択と集中という1つのストーリーが重要になってきて、鳥取環境大学らしさという所をどのように追求して、学生の多様なニーズにこういった形で答えられるのだということが重要だと思う。
- ・議会の関係、市議会のサイドもあるわけだが、こういう吹き出しのあるような形では無くて1つの形にして、そして議会に適したような表現ぶりも考えながら提示すべきであろうと思う。
- ・表現という意味は、要点をまとめて簡潔に大きな字で書いて、しっかりと強調すべきところは強調して分かりやすくして示していく。
- ・そして、出てきた意見を全部受けられると対応の限界なり、費用の面の問題もあると思うので、そこはある程度、協議会を設けて3者で詰めたものであり、自信を持って出して十分な説明をしていくという姿勢になった方がいいのではないかな。
- ・こんな意見もあります、あんな意見もありますというような状態ではやっぱりよろしくないと思う。
- ・その点は、知事と同じ意見だと思うので、協議会というものがしっかり叩いて内容を固めて、それでもってしっかりと説明をしていくと。
- ・もちろん議会からの意見も承った上で検討して、その返答ができるようにするというような作業で固めていって欲しいと思う。

○八村理事長

- ・いろいろなご意見をいただきありがたい。1つ申しあげておきたいと思う。
- ・この案というのは、教員数が46人という最低の人数で考えている。
- ・例えば、先ほどからお話があった小学校、中学校の教員ということになれば、そういう専門の方を増やさないといけない。その辺りのところを協議させていただかないと増えない、増やせないという事。
- ・その事が1つと、あとは評価の事。この案が出ています任期制の問題。これは評価がきちっとできないと任期制の適用ができないので、まず評価の方を作る事をお願いしたい。

○竹内鳥取市長

- ・任期制については私も賛成で、5年とかいうことで一応移行の段階ではっきりした上で、もちろん一定の条件で再度任用されるということはあるにしても、任期は無いといけないと思う。

○古澤学長

- ・任期制については、確かに理事長がおっしゃられたようにやっぱり評価というのがしっかりできないと、任期制が入ってくるのが難しい。評価の方がしっかりできないと任期制は難しい部分がある。
- ・それから、任期というのはメリットとデメリットがある。メリットは確かに任期が入

- っているので、評価してだめな人は切ることができる。これは非常に大きなメリット。
- ・デメリットとしては、5年と書かれますと後ろの3年目4年目になると、次の職を探す方向に動く。ずっと僕は経験してきた。そこの所をどう変えるかという問題。
 - ・全国の大学が任期制を持っているというのであれば、これはものすごくいい話。どんどん変えて、ブラッシュアップできる。ところがある一部の大学が任期制を持つと、どうしても教員は3年任期ですと後ろの1年は次の就職先を一生懸命考える。
 - ・そのようなデメリットもあるので、その辺りよく考えて任期制を入れていかないといけないかなと思っている。

○八村理事長

- ・そうは言っても最初から入れないといけない。途中でやるなんてことはできない。

●中山事務局長

- ・制度設計も含めてお話しさせていただくということで。

○古澤学長

- ・そういうことをしっかり最初から考えてやっていく必要があると思う。

○平井鳥取県知事

- ・1つ質問ですけど、先ほど市長がおっしゃったように、鳥取大学と連携して科目を作ることはできるのか。
- ・すなわち、今の教員養成課程の機能は、鳥取大学が地域学部の中に一部持っている。
- ・そのようなところで、憲法論だとか教育心理学などの科目があると思うが、そのような科目をあちらで履修しながら、こちらの大学でそれを単位認定して、互換性を持たせてやることは可能なかどうか。

○古澤学長

- ・科目によっては可能だと思う。例えば、高等学校の理科の免状をとるために、青年心理学だとか教育原理だとか必要。それは鳥取環境大学の環境学部の学部に置きなさいと決められていますので、そういう科目は置かないけない。ただし、それ以外にも教育課程に必要な科目はあるので、それは鳥取大学との話し合いで科目によっては互換は可能かなと思う。

○平井鳥取県知事

- ・それから文科省との関係。今回のようなカリキュラムの編成の粗々のもので、だいたい我々が想定している手続きの時間で対応できるものかどうか。

●中山事務局長

- ・学部の改編の内容にもよるが、引き続き最後の9月なりのその辺の認可までのスケジュールをにらめば、今のスケジュールで行けるのではないかなと思っている。

- ・ 詳細な科目編成については、まだ文科省と詳細なすり合わせなどはやっていない。
- ・ したがって、審査の時間がかかったりという部分は、これからの文科省との協議の中で出てくるかと思うが、現時点では今後この範囲であればこのスケジュールで動けるのではないかと思っている。

○平井鳥取県知事

- ・ その辺はよくリサーチをしながらしないと、後で立ち行かなくなってしまうように、そこは事前にでも話をする必要があるかも知れない。
- ・ あと今の経営の関係。任期制のことについては、私は切り替えの時でないと思いついた改革はできないと思う。
- ・ 評価の仕組みで、他大学でもやっているものがあるわけであるから、そこをしっかりとリサーチをして、当大学でも導入できるものかどうか。
- ・ 私は、評価手法は確立してきて各大学に導入されていっているのではないかと思う。
- ・ それは一定の任期制を導入するという方針を持って望んだ方が、県民の皆さんなどには安心感を得られやすいのではないかと思う。
- ・ 任期制といえども能力のある人はどんどん採用されて大学に残っていただける訳である。そこは自信を持って、我々としてはマインドを切り替えて、新しい何かをつくるのです。だから公立化は、別に自分たち教員のためにじゃなくて、皆のためにやるのだと言えやすい方がいいかなと思う。
- ・ ただ、学長がおっしゃるように、人材の面で枯渇する部分があるかも知れない。
- ・ 例えば、こういう学問領域は非常に薄いと。で、ここで、もし任期制を導入してしまうと、とてもじゃないけど人を集めるのに苦労すると。
- ・ あるいは、ある程度ステータスのある人には、通常5年と想定されている任期ではなくて、もっと長い任期を与えないと落ち着いた研究活動ができないのではないかと。そういう例外も認めてもいいかもしれない。
- ・ ただ原則として、そのような評価手法と任期制の導入を図るとするのは、協議会として合意が得られるのであれば、合意を得た上で、議会なり県民の議論にのぞんでいった方が得策ではないかと私は思う。

○八村理事長

- ・ 知事のおっしゃるとおりだと思います。

●中山事務局長

- ・ では、このたびの協議会の中で今吹き出しとかの形で整理しておりますものをきちんと成案という形、あるいは修正案という形で事務局の方でまとめさせていただきたいと思う。
- ・ 協議会といったこのような場でまたお諮りするということは時間的なものもあるかもしれないので、個別にまたご相談させていただき、それぞれ県議会、市議会の方に修正案をお示しして、それから議会からご意見をいただいて再度修正を加えていくと。
- ・ そういったような作業ということではよろしいか。

- ・それではそんな形で進めさせていただきたい。
- ・また、それぞれアドバイザーの方々へも、全部の方にお聞きしきれてないので、また随時その辺りは、引き続きご意見等いただきながら、修正案の中にも盛り込めるものは盛り込んで参りたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

以 上